

平成22年 2月 3日

柴田町議会

議長 我妻弘国 殿

文教厚生常任委員会

委員長 加藤克明

委員会行政視察報告書

先に実施した文教厚生常任委員会行政視察の結果を、下記のとおり報告します。

記

1 期 間 平成21年10月29日（木）～31日（土）

2 視察地及び視察内容

(1) 愛知県半田市

・総合型地域スポーツクラブの取り組みについて

(2) 滋賀県大津市

・子育て総合支援センターゆめっこの取り組みについて

3 視察概要 別紙のとおり

1 市の概要

半田市は名古屋市の南、中部国際空港の東にあり、知多半島の中央部東側に位置している。昭和12年に誕生し、平成20年の春には人口が12万人に達した。古くから海運業、醸造業などで栄え知多地域の政治・経済・文化の中心都市として発展してきた。

半田市の象徴は「山車」「蔵」「新美南吉」「赤レンガ」で、山車祭りの歴史は古く300年余の歴史があり、その伝統や文化を現在に受け継いでいる。春に曳き廻される山車は、精緻を極めた彫刻、華麗な刺繍幕、精巧なからくり人形などが備えられ、その壮観な姿は「はんだびと」の誇りとなっている。中でも「亀崎潮干祭の山車行事」は国の重要無形民俗文化財に指定されている。また、5年に一度各地区の山車31台が勢揃いする「はんだ山車まつり」には48万人もの観客が訪れている。

平成21年11月1日現在の半田市の人口は120,460人で、世帯数は47,020世帯となっている。

2 研修内容 「総合型地域スポーツクラブの取り組みについて」

1) 総合型地域スポーツクラブへの取り組み

平成6年度	成岩地区において学校と地域の自発的な取り組みとしてのスポーツクラブづくりが始まった。 (成岩地区少年をまもる会の6月総会で成岩スポーツタウン構想が発表される)
平成7年度	成岩地区少年をまもる会が文部省指定の「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」の推進母体となる。
平成8年3月	成岩スポーツクラブが設立される。(成岩中学校区)
平成10年度	スポーツクラブ設立の全市展開を開始。 核として半田スポーツ健康推進協議会を設置し、 戦略プラン「HANDA Sports Life Project2000」を展開する。 財源は文部省委嘱事業「子ども遊悠プラン」による。
平成11年5月	スポーツクラブ YOUKI が発足。(亀崎中学校区)
平成13年3月	青山スポーツクラブが発足。(青山中学校区)
平成13年5月	乙川スポーツクラブが発足。(乙川中学校区)
平成15年2月	半田地区スポーツクラブが発足。(半田中学校区) 市内5中学校区すべてにスポーツクラブが設立される。
平成15年12月	ナラウイングの竣工。(成岩中学校区)

2) 学校のクラブと総合型地域スポーツクラブの連携

平成6年度に成岩地区の学校と地域の自発的な取り組みとして始まったスポーツクラブづくりと並行して、部活動検討委員会(小中学校の校長・先生が中心)が発足した。

部活動検討委員会では平成14年度から完全学校週5日制が導入されることから、部活動の今後のあり方を平成6から10年にかけてアンケート調査、部会などを開催して検討した。

その結果、原則土・日は部活動を実施せず、児童生徒を地域や家庭に返すという最終答申をまとめた。学校部活動と連携して、地域のスポーツ振興を学校とともに進めていくという趣旨に基づくものである。

その後、成岩スポーツクラブを皮切りに、中学校区ごとにスポーツクラブが立ち上がる。スポーツクラブは各中学校区内の小中学校の体育館やグラウンドなどを使用して活動をしている。

現在、半田市では中学校の土・日曜日の部活動は原則行われていない。中学校の部活動を土・日曜日に行う場合は、生徒と教員が総合型地域スポーツクラブに加入して練習を行わなければならない。スポーツクラブのため、外部の指導者と一緒に活動することができる。

3) スポーツクラブへの補助金交付額 (単位：万円)

	成岩	亀崎	青山	乙川	半田	合計
平成 7 年度	600					600
平成 8 年度	900					900
平成 9 年度	1,200					1,200
平成 10 年度	80	300				380
平成 11 年度	80	300	150	150		680
平成 12 年度	80	300	300	300		980
平成 13 年度		80	300	300	300	980
平成 14 年度		80	150	230	300	760
平成 15 年度		80	80	80	300	540
平成 16 年度			80	80	80	240
平成 17 年度			80		80	160
平成 18 年度					80	80
平成 19 年度						0
合 計	2,940	1,140	1,140	1,140	1,140	7,500

- ・各中学校区（スポーツクラブ）の取り組みに対し、市独自の補助金は6年間のみ。
- ・成岩スポーツクラブの7～9年度の補助金は、文部省のモデル事業によるもの。成岩スポーツクラブ以外のスポーツクラブにかかる光熱水費は学校で負担している。

4) スポーツクラブの年会費 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

	成岩	亀崎	青山	乙川	半田
入 会 金	3,000 円	設定なし	1,000 円	設定なし	設定なし
家族会員	24,000 円	設定なし	10,000 円	設定なし	設定なし
一 般	18,000 円	2,000 円	3,000 円	3,000 円	3,000 円
小中学生	12,000 円	2,000 円	家族会員での入会	2,000 円	2,000 円(中) 1,000 円(小)

5) スポーツクラブの指導者 (平成 21 年 7 月実態調査) (人)

	成岩	亀崎	青山	乙川	半田
指導者総数	60	63	60	66	102
①資格指導者	60	28	60	50	67
手当あり	60	0	60	1	23
手当 1 回の平均額	767 円	なし	500 円	500～ 1,000 円	300 円
手当なし	0	28	0	49	44
②資格なし指導者	0	35	0	16	35
手当あり	0	0	0	10	35
手当 1 回の平均額	なし	なし	なし	250～500 円	300 円
手当なし	0	35	0	6	0

6) スポーツクラブ指導者の育成

平成 13 年度から、各クラブの役員で構成する半田スポーツクラブ機構(代表 教育長)を組織して、広域スポーツセンター事業を運営し、指導者の育成や各種ソフト事業の実施により地域のスポーツクラブの育成と定着を支援している。

① 広域スポーツセンター事業

・スポーツアシスタント養成研修会

地域スポーツクラブに登録する指導者を対象に研修会を開催して資質の向上を図る。

・トレーニングアカデミー

一流コーチを招き、主に地域スポーツクラブで活動する青少年を対象にした競技力向上のトレーニングを図る。

・幼児・低学年のスポーツ教室

親子でできる正しい基礎的な運動を通じてスポーツ好きな子どもたちを育てる手助けをする。

・スポーツ相談

専門分野の講師を招いて、スポーツに関する相談に応じる。

・スポーツクラブ市民フォーラム

市内に設立されている、総合型地域スポーツクラブの活動を啓発し、参加を促進させる。

② 地域認定スポーツアシスタント

市内の総合型地域スポーツクラブで指導にあたる人たちに「地域認定スポーツアシスタント」という資格を付与している。

地域認定スポーツアシスタントとは、半田市独自の指導者認定制度で、平成 21 年 3 月現在、346 人が認定されている。

新しく資格を取得するには、各スポーツクラブにおいて指導者登録し、実際スポーツクラブで指導者として活動することが求められる。資格取得のための講習会には、所属するスポーツクラブを通じて申し込み受講する。受講完了者には認定証、登録証が交付され、3年間の資格が与えられる。3年後に更新の研修会を受講することで資格の継続ができる。

7) 見学したスポーツクラブ

①半田市成岩地区総合型地域スポーツクラブハウス

- ・施設概要 学校地域共同利用型施設
- ・設 立 平成8年3月(平成14年12月に法人化)
- ・開 設 平成15年12月(NARAWA WING)
- ・開館時間 午前9時から午後9時30分
- ・休 館 日 12月29日～1月3日
- ・施設内容 敷地面積 33,085.00 m²
建築面積 3,023.21 m²
主な施設 アリーナ1・トレーニング室・健康体力相談室・会議室・研修室・浴室・更衣室・事務室多目的トイレ・アリーナ2・エレベーター
- ・指定管理者 特定非営利活動法人ソシオ成岩スポーツクラブ
(平成21年度から23年度)
正規職員3人、アルバイト3人
- ・指定管理料 19,310,000円(平成21年度予算額)
- ・加入者数 2,707人(H21.2現在)

②半田地区スポーツクラブ

- ・施設概要 半田市立半田中学校内にクラブハウスを置く
- ・設 立 平成15年2月
- ・開館時間 月曜から金曜日は午後1時から5時、日曜日は午前9時から正午(外出あり、要連絡)・土曜日及び祝祭日はFAX対応
- ・休 館 日 8月13日～8月17日、12月28日～1月4日(平成21年度)
- ・施設内容 半田小、岩滑小、雁宿小、さくら小、半田中の体育館・グラウンド・柔剣道場・プール・テニスコートなど
- ・運 営 費 会費、賛助金、事業収入などで運営
事務局2人
- ・加入者数 2,104人(H21.2現在)

3 結 果

半田市では「半田市スポーツ振興計画」に基づき、青少年の心身の健全な育成、地域社会の活性化、市民の健康の保持増進のため、成岩・亀崎・青山・乙川・半田の各中学校敷地内のクラブハウスを拠点とした総合型地域スポーツクラブを核に生涯スポーツ社会の実現を目指したスポーツ振興を進めていた。

スポーツクラブによって施設規模や会費、指導者の確保や手当などに差があり、中学生にスポーツクラブの会員登録をしてもらうことで収入の安定を図っていたが、各スポーツクラブ事務局の努力によって運営が成り立っている部分は大きい。

本町においても、総合型地域スポーツクラブ設置の際は運営・指導スタッフの人材確保が課題である。その中で、仙台大学とは事業連携により各種スポーツ教室や講座を開催しており、指導体制の整備においては欠かせない存在である。このようにスポーツに関連する仙台大学、柴田高校もあることから、それぞれの特色を生かした連携協力のもと、地域の実情に沿った運営が図られるような組織づくりが必要であると思われる。

1 市の概要

大津はおよそ8,000年前の縄文時代に湖辺に人々が定住して以来、各時代において日本の歴史の表舞台に登場してきた。とりわけ平安時代以降、日本の東西を結ぶ交通の要地として重視されてきた。

大津市は、日本一の大きさを誇る琵琶湖、比良山や比叡山などの自然に恵まれ、これらが生み出す美しい風景と自然を、四季を通じて楽しむことができる。また、世界文化遺産の比叡山をはじめ、三井寺や石山寺などの歴史遺産も有しており、平成15年10月には全国で10番目の「古都」指定を受けた。

京都市に隣接しており、大津市はJR京都駅から約10分（大津駅・大津京駅）とアクセスが大変よく、京阪神を中心に全国から多くの来訪者が訪れている。

平成21年11月1日現在の大津市の人口は336,441人で、世帯数は134,597世帯となっている。

2 研修内容 「子育て総合支援センターゆめっこについて」

1) 子育て総合支援センターの目標

子どもを安心して産み育て、共に育ち合う子育て仲間のつながりとまち創りの推進
～出合いが楽しい、いのちきらめく、わくわく体験、安心安全市民のパーク～

2) 子育て総合支援センターの概要

子育て総合支援センターゆめっこは、浜大津駅前「明日都浜大津」の3階にある。平成10年に建てられたビルだが、平成15年に商業施設が撤退したことで、都市計画部内で施設の再利用を検討するプロジェクトチームが立ち上げられた。

同時期に次世代育成支援行動計画の中に子育て支援センターの整備計画が位置づけられていたことから、場所の利活用と子育て支援センター整備ということで、平成18年4月にオープンした。

利用者数は年間約11万5,000人、延べ人数は平成21年10月で40万人を超える。1日約300人の来園があり、リピーターは77%。利用する子どもの年齢はゼロ歳から3歳までが85%で、子育て中の30代の母親が多い。

車での来園が6割を超え、大津市内からの利用が74%。

①場 所 明日都浜大津3階

②開館時間 午前9時から午後4時30分

貸室利用時間 午前9時から午後6時

子育て相談 午前8時40分から午後5時25分

③入場料 無料・駐車料金は30分無料。大津市在住の方は、ゆめっこインフォメーションにて駐車券と免許証を提示するとさらに60分延長

④休館日 毎週月曜日・第4日曜（祝日のときは翌日に振替）・年末年始・年間291日開館

⑤職員数 職員12人（保育士9人、発達相談員1人、事務職員2人）、臨時職員14人（保育士・栄養士・保健師）

⑥利用対象 就学前の子どもとその家族、子育て自主サークル、子育て支援参画市民など

⑦施 設 子どもとその家族が天候にかかわらず、安全に安心して集い、遊べるさまざまなランド（部屋）がある

- ・ゆめランド…大型遊具や木製遊具等がある。遊びの広場
- ・くっきんぐランド…家族の調理体験の場。昼食時には持参したお弁当を食べることができる
- ・おはなしランド…人形劇やパネルシアターなどでお話に親しむ場
- ・はいはいランド…乳児やその家族の遊びと憩いの場。授乳室がある
- ・すくすくランド…講座開催時の託児・保育の場。ものづくり体験の場
- ・ばるランド…子どもの発達や子育てに関する相談や支援を行う場
- ・図書コーナー…絵本とのふれあいと読み語りの場。絵本や子育てに関する図書の販売も行う
- ・なごみサロン…子どもと一緒に飲食できる語り合いの部屋。パンの販売や子どもメニューがある飲食コーナー
- ・インフォメーション…センターの案内や子育て情報の収集発信を行う。子育て相談や講座等の受付も行う
- ・砂場…殺菌済みの砂を使用した室内の砂場。
- ・その他…交流ホール（貸室料190円／1時間）
会議研修室（貸室料200円／1時間）ほか、部屋の貸し出しをしている
- ・大津市立浜大津保育園…ゆめっこに併設。公設の認可保育園で、指定管理者により管理運営。通常保育のほかに一時保育や保育園生活体験なども行う

3) 事業内容

①地域子育て応援事業

大津市は南北に長く7つのエリアに分かれており、ブロックごとの自主サークルや幼稚園・保育所・公民館等関係機関と子育て支援センターが連携して活動の支援をする。

- ・自主サークル応援事業（各ブロックへの訪問と連携講座の実施）
- ・子育てステーション事業（公立保育園の園庭や室内を解放）
- ・子育てネットワーク事業（関係機関との連絡協議会を実施）
- ・育ち合い広場事業（親子の遊び体験とミニ講座の実施）
- ・こどもフェスタ事業（子育て家族の出会いと学び体験の場を提供）
- ・子育て支援参画市民団体連絡会事業（活動の交流と共催事業実施）
- ・子育て支援委託団体連絡会事業（団体交流、課題共有、フォーラムなどへの協力）

②情報の収集と発信事業

各地域や関係機関からの子育て情報を把握し、子育て支援センターがまとめて情報を発信する事業。

- ・子育てハンドブック発行（大津っ子は年5,000部を発行、出生届提出の際に配布。大津市では1年間に約3,000人が出生。この1冊で大津市の子育て情報が得られる）
- ・子育て支援“夢”通信（大津市ホームページの活用・更新と掲示板の作成）
- ・ゆめっこ通信発行（ゆめっこ事業開催内容と場所などの紹介。毎月1万1,500部を発行。幼稚園、保育所、公民館、自主サークルに配布）
- ・ホッとタイムズ発行（子育て支援に係る通信で5,000部を発行。子育ての生の声などを掲載）

③親子、家族の交流・学習・体験事業

いつでも、誰でも気軽に集える場の提供と家族でふれあい、学び、共感を体験する事

業の実施。

- ・子育てリフレッシュ講座（保護者のリフレッシュとスキルアップ講座）
- ・父親のための子育て講座（ふれあい、自然、木工体験講座）
- ・家族ふれあい講座（自然、音楽、健康など家族のふれあい体験）
- ・自然の中で一緒に遊ぼう（自然の中に出て四季を感じる講座）
- ・読み語り事業（読み語りと絵本に関するアドバイス）
- ・お話し劇場事業（人形劇やパネルシアターなどの鑑賞）
- ・子育てサロン事業－乳児講座（ゼロ・1歳児の子と家族が対象）
- ・多胎児交流（応援）事業（双子、三つ子のつどいと交流）
- ・家族もぐもぐクッキング講座（親子クッキング体験）

④子育て語り合い相談事業

子育ての不安や悩みを解消すると共に子育ての楽しさを感じてもらおう取り組み。

- ・子育て相談事業（来所・電話・訪問相談など日常的に実施、専門機関への紹介と連携、言語・発達相談の実施）
- ・子育て語り合い事業（おしゃべり場の開催で、気軽に集い、思いを語りあうことで和み、子育てに自信をもってもらおう事業）
- ・子育ていきいきフォーラムの実施（子育てに関係する仲間の交流）

⑤大津っ子子育て応援隊養成事業

- ・子育て支援に係るボランティア（市民に子育て応援隊の公募をしている。応援隊を養成してゆめっこで主体的な活動を支援するとともに、各居住地域での活動の充実を目指す）
- ・大津っ子子育て応援隊養成講座（1期生から4期生まで100人ほどいる。応援隊は男女関係なく18歳以上なら何歳でも。現在80歳近い方もいる。応援隊の研修は年8回。応援隊で実質2年間活動した後にスキルアップの研修を実施。研修内容は応急手当、カウンセリング、絵本の読み聞かせなど。応援隊は有償で3時間1,500円支給）
- ・大津っ子子育て応援隊自主活動への支援と調整
- ・シルバー人材センターの会員が週2回ボランティアと現場研修を兼ねて活動

⑥発達支援療育事業

子育てに悩みを持ち、子どもの育てにくさを感じている保護者や発達的な支援を求めている子どもに対し継続的に発達支援療育を実施する。

- ・月1回市内3カ所の幼稚園の空き教室を使い、保育士と健康推進課の保健師、発達相談員がかかわり、2・3歳の子供約15名と10時から11時30分まで遊具や教室で遊ぶ
- ・子育て支援センターでは、週2回保育室を使って2歳児のグループ、3歳児のグループそれぞれ10名ずつ受け入る。2歳児は水・木、3歳児は火・金で2日のうち1日は親子で通う。10時から午後3時まで過ごすため、給食とおやつが出る。1日400円の利用料をもらい、センターに併設している浜大津保育園が用意している

⑦関係課連絡調整事業

- ・子育て支援関係課連絡会（子育て支援に係る関係課との事業内容の共有）
- ・発達支援関係スタッフ会議（発達支援療育事業に係る関係課との事業内容の検討）

⑧子育て支援関係職員研修事業

- ・職員の資質向上・研修
- ・大津っ子子育て応援隊の研修
- ・幼稚園・公立・私立保育所との合同研修を計画・実施

3 結 果

子育て総合支援センターゆめっこは、子育て支援関係機関などと協力してさまざまな事業を実施している。

子育て仲間が気軽に集える場として、親子で交流・学習・体験ができる講座の開催や自主サークル立ち上げの運営支援のほか、子育て応援隊やシルバー人材センターの会員が週2回ボランティア活動をしており、異世代交流の場にもなっていた。

施設は明るく広々しており、多くの子どもたちの笑い声が聞こえた。週2・3日は来所しているという親子に話を聞いたが、親同士の交流の場、育児相談が気軽にできる場として保護者にとっても必要な場所となっていた。

従事する職員も多く、専属の事務職員が作成するホームページの見やすさや「子育てハンドブック大津っ子」の発行などは参考となるところが多い。

子どもと保護者が安全で自由に遊べる場所づくり、子育て関係機関との交流や気軽に相談できる場所づくり、子育て情報の発信などの取り組みを、本町の子育て支援センター充実のため参考にしたい。